

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：国土計画の歴史	
日付：11月22（日）曜日、セッション時間：9:00-10:30	
司会者名（所属）：岡田昌彰（近畿大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： テーマが多岐に渡っていましたが、「土木遺産」研究に対するアプローチの仕方という点で共通する内容が含まれており、発表者間でも活発な意見交換がありました。既存の情報を正確かつ詳細に発掘・把握することに加え、情報の適切な解釈といった土木史研究の基礎的なアプローチ法についても討議が行われました。</p>
	<p>（163）西尾敏和（高崎工業高校） 近代におけるわが国の「生糸の運搬経路」をシルクロードと位置づけ、その変遷をまとめたもの。既往文献と本研究の位置づけを明確にする必要のある点や、土木史研究における「一次資料」「解釈」の概念を参照すること、及び富岡製糸場の現況に関する正確な情報を把握しておくことの必要性などが討議されました。</p>
	<p>（164）青木達也（宇都宮大学） かつての足尾銅山における廃水処理対策の歴史的変遷を明らかにしたもの。水処理技術の出処（海外を参照したのか）や上水道技術との関連、及び公害史における土木遺産の位置づけ（例えば、シックナーのような「環境対策と廃物利用の両立の歴史」という観点など）などについて討議されました。</p>
	<p>（165）堀川洋子（日本大学） 1950年代に発足した「日本大学国土総合開発研究所」に関し、その先導的役割を担った井上孝氏へのインタビューならびに発掘資料からその実態を明らかにしようとしたもの。戦後の国土計画に対する当研究所成果物の具体的な役割、散逸資料の有無、ならびに本知見の「自校学習」への援用の可能性などについて討議されました。</p>